

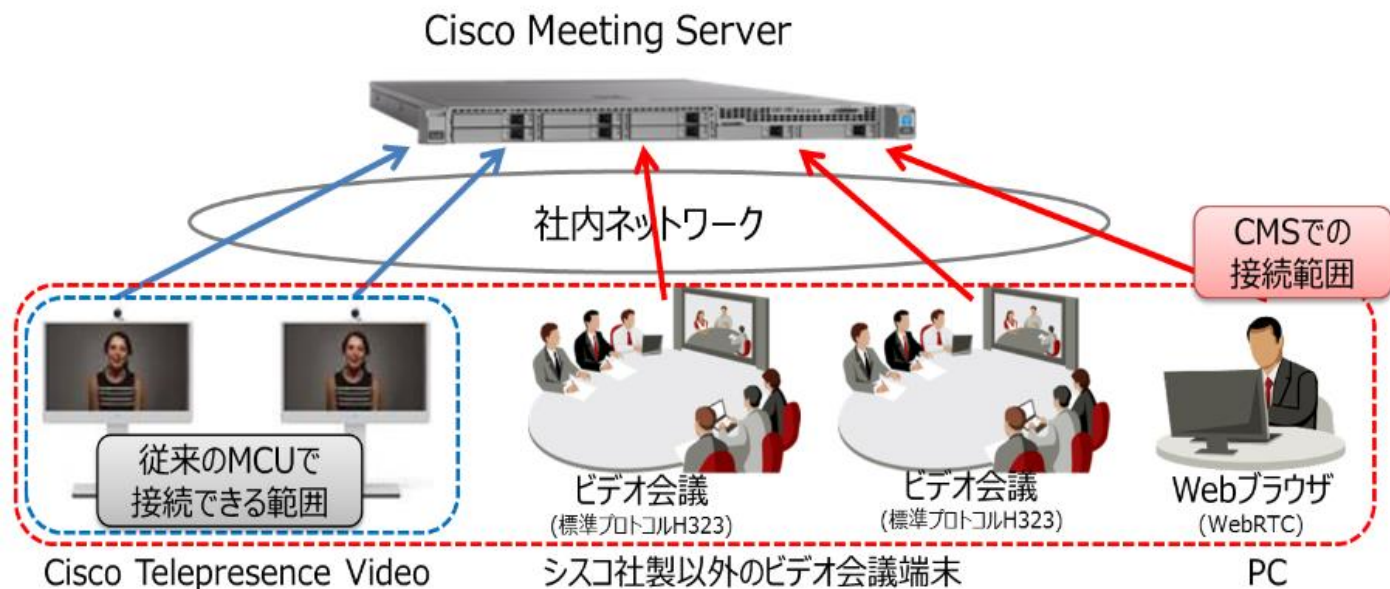


「Cisco Meeting Server(CMS)」はMCU(多地点接続装置)機能を備えつつ、Microsoft社が提供するSkype for Business、Web ブラウザ、他社ビデオ会議システムと連携が可能な仮想化アプリケーションです。
既存のビデオ会議システム(Polycom社製端末など)をご利用中のお客様にMCU機能としてご利用いただけます。

シスコ社製以外のビデオ会議端末などあらゆる端末との多地点接続が可能

■ 接続イメージ

従来はシスコ社製ビデオ会議端末やソフトフォンのみの多地点接続が可能でしたが、「CMS」は「H323」等のプロトコルに対応した他社のビデオ会議システムやPC等との多地点接続が可能です。
既存でビデオ会議システム(Polycom社製端末など)をご利用中のお客様はMCU機能としてご利用いただけます。



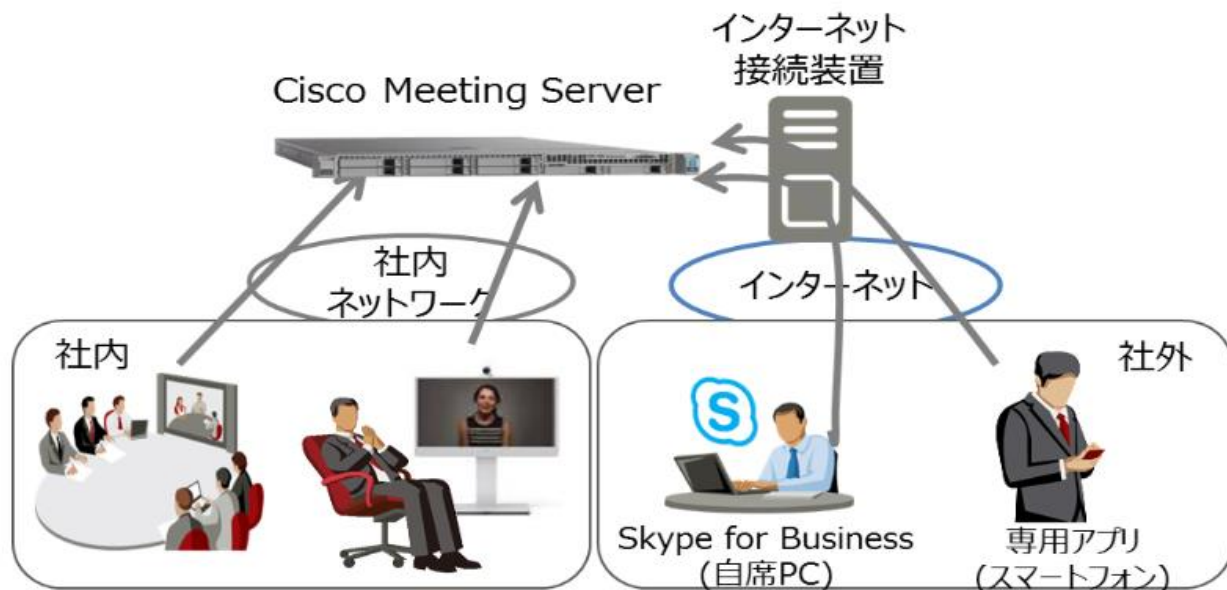
また、「WebRTC」を利用すれば、クライアントソフトのインストール不要で、Webブラウザ(Chrome等)からの接続が可能です。

【接続可能な規格一覧】

項目	内容
ビデオ規格	H.263 (+, ++), H.264 AVC (Baseline and High Profile), H.264 SVC, WebM, VP8, Microsoft RTV, HTML5/WebRTC, SIP, H.323, TIP
音声規格	AAC-LD, Speex, Opus, G.722, G.722.1, G.722.1c, G.728, G.729a, G.711a/u

富士通取り扱いシスコ社製エンドポイントおよび電話機に加え、上記の規格に対応する端末の接続が可能です。
※導入には担当SE/支援部隊と連携の上、事前に接続検証をしていただきますようお願いいたします。

■あらゆる利用シーンに応じた会議が可能



従来映像を利用した会議にはビデオ会議やWeb会議があり、別々に利用されていました。CMSは標準でSkype for Business・Webブラウザ・専用アプリと接続が可能のため、利用シーンに応じてビデオ会議・PC・スマートデバイスなどあらゆる端末から会議に参加することが可能となります。

【仮想化アプリケーション「CMS」をハードウェア「CMS1000」に搭載した場合の接続数について】

解像度 / フレームレート	1080p60	1080p30	720p60	720p30	Lync Gateway	480p30	VGA	CIF	Web会議 (*2)	Audio
接続可能なデバイス数	28	48	57	96	115(*1)	192	230	480	1152	3000

(*1) 解像度はVGA

(*2) 資料と音声のみの場合

導入価格例

【前提条件】

・端末は既存のものを利用するため追加手配なし

・一度に同時に開催される会議は2会議まで

※CMSでは会議の同時開催数のライセンス（SMPライセンス）が必要となります。

品名	数量	標準価格	合価	備考
Cisco Meeting Server 1000 Bundle	1	¥3,331,000	¥3,331,000	CMS本体装置 VMwareおよび、VM Meeting Serverバンドル
TelePresence SMP ライセンスx1	2	¥1,594,000	¥3,188,000	2ライセンス
総計			¥6,519,000	



ワークスタイル変革を実現するため、様々なコラボレーションツールが増加しています。「シームレスコラボレーションサービス」はあらゆるコラボレーションツールをシームレスに繋ぎ働く場所・デバイスに合った最適なコラボレーション環境を提供します。

シームレスコラボレーションサービスとは？

「シームレスコラボレーションサービス」とは、様々なデバイスを利用し、「手段」・「場所」・「時間」を問わず、様々なコラボレーションツールをセキュア且つ簡単に利用できるクラウド型サービスです。今回はビデオ会議接続サービス「コラボレーションゲートウェイ」および、PCソフトフォン、モバイル等の様々なデバイスで、音声通話、インスタントメッセージ、プレゼンス等のUnified Communication（以下、UC）機能を提供する「UCサービス」をクラウド型で提供します。

概要図



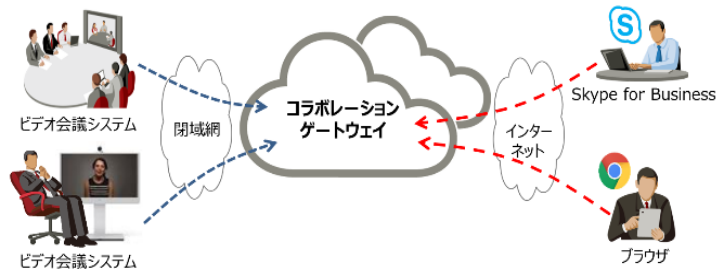
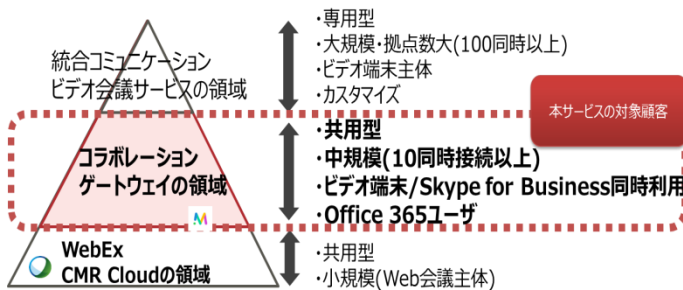
提供形態

シームレスコラボレーションサービス

- ① コラボレーションゲートウェイ
- ② UCサービス

① コラボレーションゲートウェイの概要

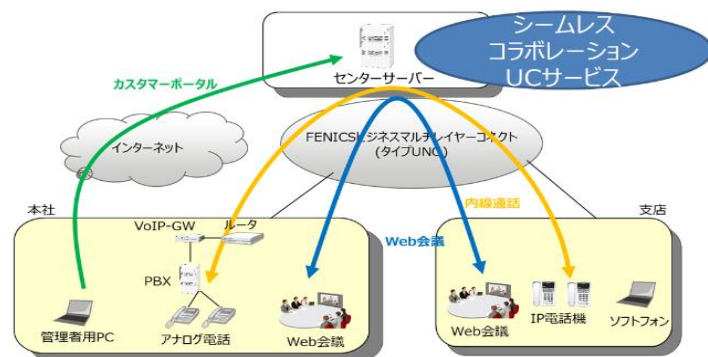
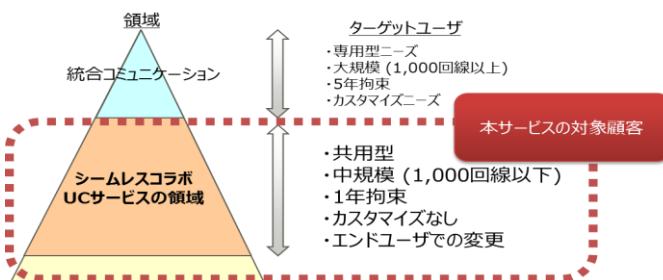
コラボレーションゲートウェイはビデオ会議端末の多地点接続と異機種間(ビデオ会議端末・PC・スマートデバイス)の相互接続を実現する中規模(5~40同時接続)向けのサービスとなります。



- 利用者は場所・端末を気にせず、どこでも会議に参加可能
- 高額な初期投資が必要なビデオ会議インフラをサービスで利用可能
- 利用したい数のID数を利用可能

② UCサービスの概要

本サービスはNTTコミュニケーションズが提供する「Arcstar UCaaS Cisco タイプ」のプラットフォームを利用してUC機能をクラウド型で提供します。中規模（500~1000回線）のお客様向けにIP電話、PCソフトフォン、モバイル等の様々なデバイスで、音声通話、Web会議、テレビ会議等の様々なコラボレーションツールをセキュアかつ簡単に利用できる環境をサービス型で提供します。



①コラボレーションゲートウェイの特長

(1)Skype for Businessとの連携

Office 365のSkype for Businessを利用すれば、拠点間のビデオ会議に自席や外出先から参加が可能になります。

【従来】

- ビデオ会議のある拠点に移動
⇒ 移動時間、コストが発生
- 全員がWeb会議で会議
⇒ 臨場感がない。拠点トラフィック圧迫

【本サービス】

- Skype for Business(Office 365)のWeb会議機能でPCから会議に参加可能
- PCからの資料共有も可能

(2)社外関係者とのビデオ会議を実現

PC(Webブラウザ)からインターネット経由で社外関係者やお客様とのビデオ会議を実現します。

【従来】

- 対面会議
⇒ 移動時間、コストが発生
- ビデオ会議システムにゲストアクセスを追加
⇒ セキュリティ対策が必要
⇒ 専用クライアントのインストールが必要

【本サービス】

- インターネットからのビデオ会議端末の接続を提供
- ゲストアクセスにWebRTC技術を利用し、クライアントインストール不要で会議に参加可能

(3)初期コストを抑えたビデオ会議を実現

オンプレミスの場合は多地点接続装置の機器費やSI作業費用※が高額となりますが、本サービスの場合は中規模向けのお客様でも初期コストを抑えた利用が可能となります。

【オンプレミス】5台接続する場合

- 多地点接続装置 : 450万円
 - インターネット接続装置 : 550万円
 - ライセンス+個別SI費用 : 1,000万円
 - 計 : **2,000万円**
- 初期投資が高く導入に踏み切れない

【本サービス】5台接続する場合

- 多地点接続 : 20万円/月
 - インターネット接続 : 8万円/月
 - 計 : **28万円/月**
- 中規模のお客様でも利用したいID数に合わせて利用可能

②UCサービスの特長

(1)ID数の増減に柔軟に対応可能

柔軟にID数の追加・減少が可能のため、利用する機能や働き方に合わせた柔軟な利用が可能です。

(2)短期間での導入や運用工数を低減

オンプレミスでの導入と比較すると導入までの期間も短く、ビジネス環境の変化にも迅速に対応可能です。また、サービス型での提供により設備の運用・管理の工数が減るため、お客様の負荷を低減します。

(3)管理者機能

管理者ポータルを公開しているため、お客様自身で利用者の追加・削除や内線番号の付与が可能のため、組織変更や従業員の増減に素早く対応できます。



「AuthConductor Server Standard V1」は、オンプレミスからクラウドサービスまで様々な業態のお客様が保有するサービス環境に手のひら静脈認証を連動させることが可能な、統合管理ソフトウェアです。
企業内の業務システムの認証 (inB) のほか、企業サービスを利用するお客様の認証(B2C)に適用可能です。

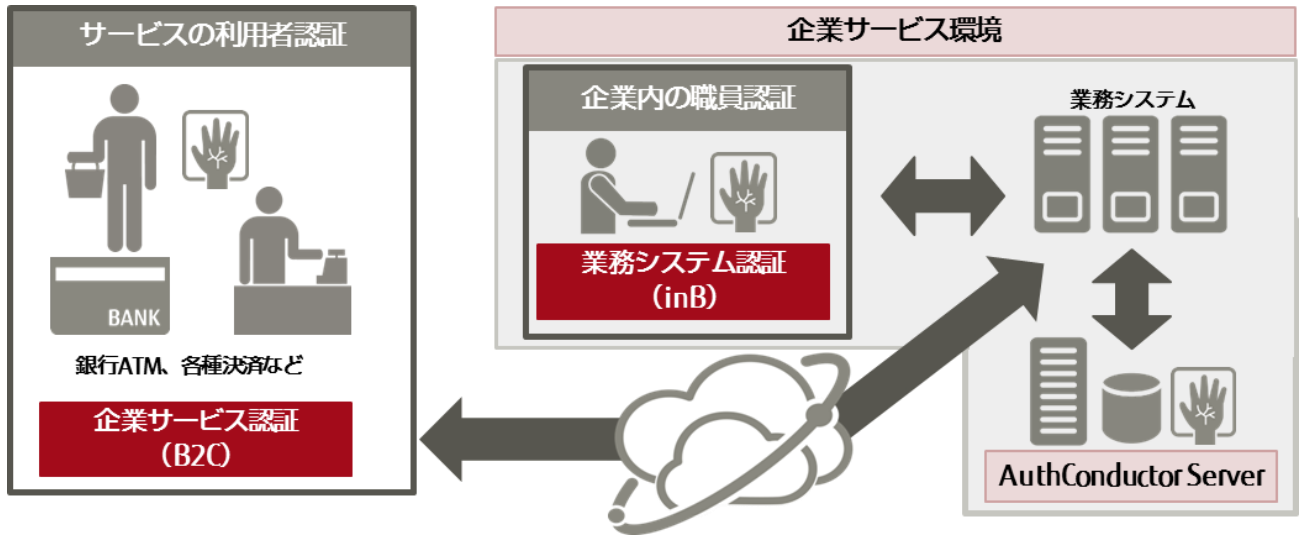
【ここがポイント】

・業務システムへの容易な組込み

- ①業務パッケージ連携やWebAPI利用により、銀行ATMや決済端末連携など様々な業態において、お客様の複数の業務システムに容易に手のひら静脈認証機能を組み込みます。
- ②業務システム毎に独立した個々の認証環境を構築できるため、お客様環境にあわせた柔軟なシステム構築が可能です。
- ③生体情報の統合管理：手のひら静脈情報を統合的に運用・管理する事が可能なため、システム毎の静脈情報管理が不要

AuthConductor Server Standard概要

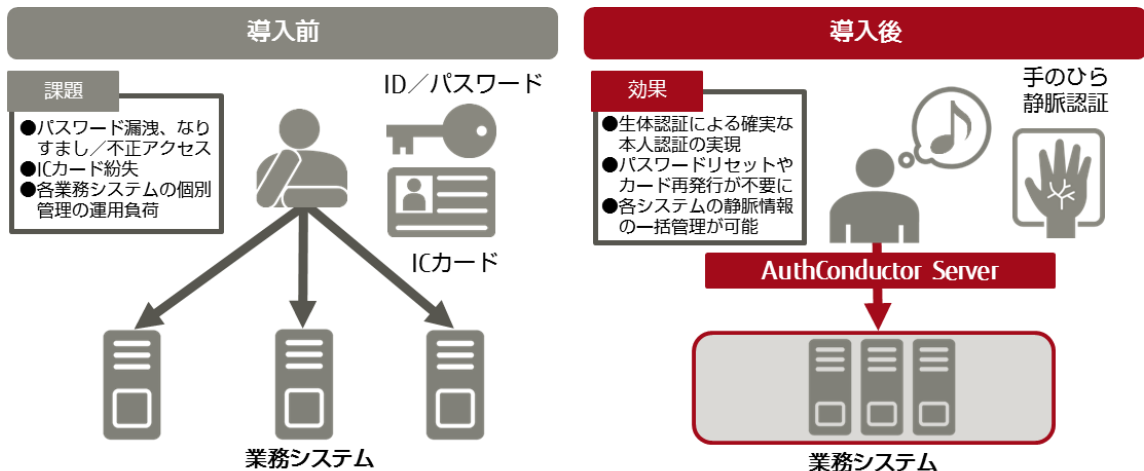
「AuthConductor Server」は、「手のひら静脈認証 FUJITSU 生体認証 PalmSecure」を認証デバイスとして利用する高精度な利用者認証機能と、認証に利用する生体情報を統合的に運用・管理する機能を搭載しています。社内業務システムを利用する企業内の職員の認証 (inB) だけでなく、企業が提供するサービスの利用者の認証 (B2C)にも適用できます。



AuthConductor Serverシステム構成イメージ

導入メリット

「AuthConductor Server」の導入により、お客様の利便性およびセキュリティの向上が実現し、運用管理工数の軽減が図れます。



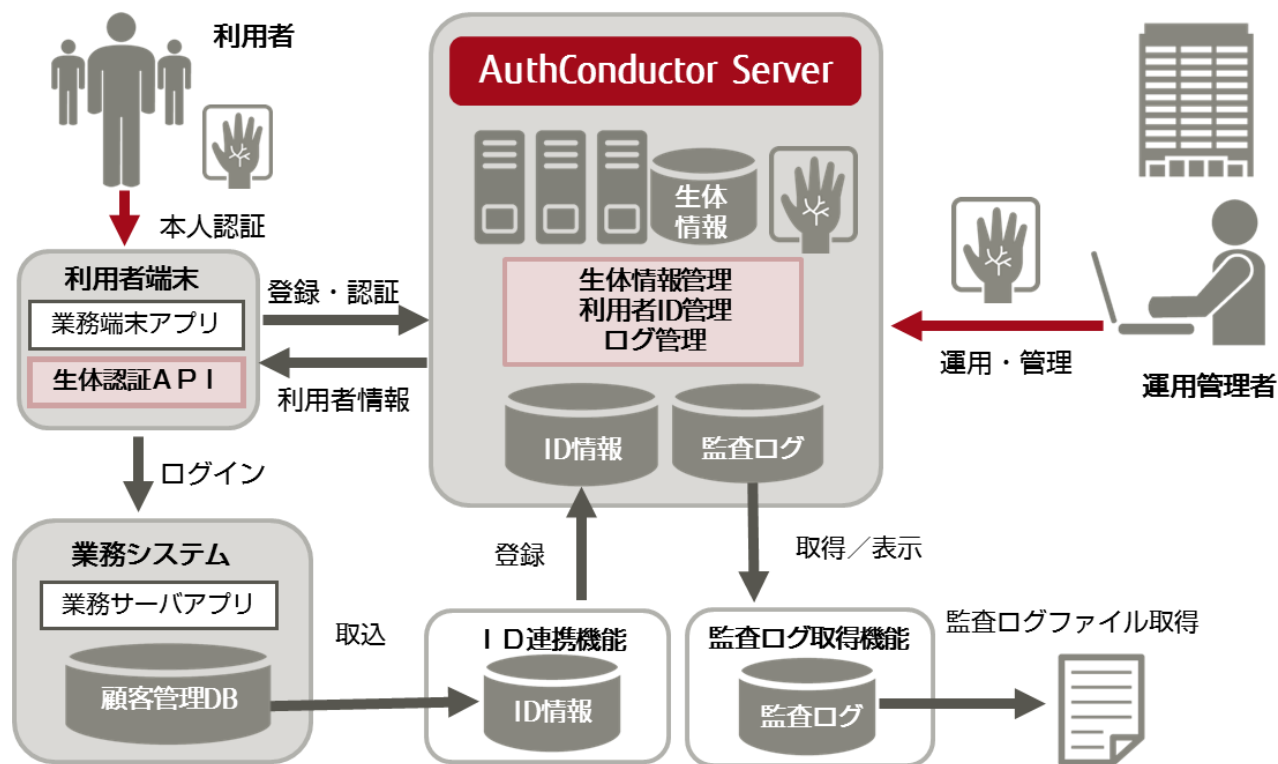
特長

1. 業務システムへの容易な組み込み

業務パッケージ連携やWebAPI利用により、銀行ATMや決済端末連携など様々な業態において、お客様の複数の業務システムに容易に手のひら静脈認証機能を組み込みます。業務システム毎に独立した個々の認証環境を構築できるため、お客様環境にあわせた柔軟なシステム構築が可能です。

2. 生体情報の統合管理

個々の認証環境に格納されている生体情報を統合管理できるため、システム毎に手のひら静脈情報を運用管理する手間が不要となります。



利用シーン

各種業務への手のひら静脈認証の適用が可能です。

銀行ATM キャッシュカードレス取引 	店舗 クレジットカードレス決済 	ホテル 客室キーレス開錠 セルフチェックイン 	図書館 図書カードレス貸出 	イベント会場 チケットレス入場
----------------------------------	-------------------------------	---	-----------------------------	-------------------------------

構成例

利用者が1,000人、クライアント端末が200台、サーバ冗長時の「AuthConductor Server」関連の構成例

アイテム		価格(税抜き)
AuthConductor Server Standard V1 ライセンス費用	2,800,000円	合計：4,000,000円
その他関連ソフト	1,200,000円	

- ・サーバ機器、クライアント端末、PalmSecureセンサV2、ネットワーク、および導入SE費用は本見積りに含んでおりません。
- ・サーバ機器、ソフトウェア構成はお客様要件により変動します。
- ・保守サポートメニューも別途ご提供しております。



「K5」は、オープンテクノロジーをベースに当社の知見やノウハウを『Knowledge』として蓄積させ、お客様の開発／運用の効率性を向上する新たなクラウドです。
この「K5」について、最近のエンハンス内容をご紹介します。

高度なセキュリティを実現する「IPCOM VA2」を仮想アプライアンスとしてご提供

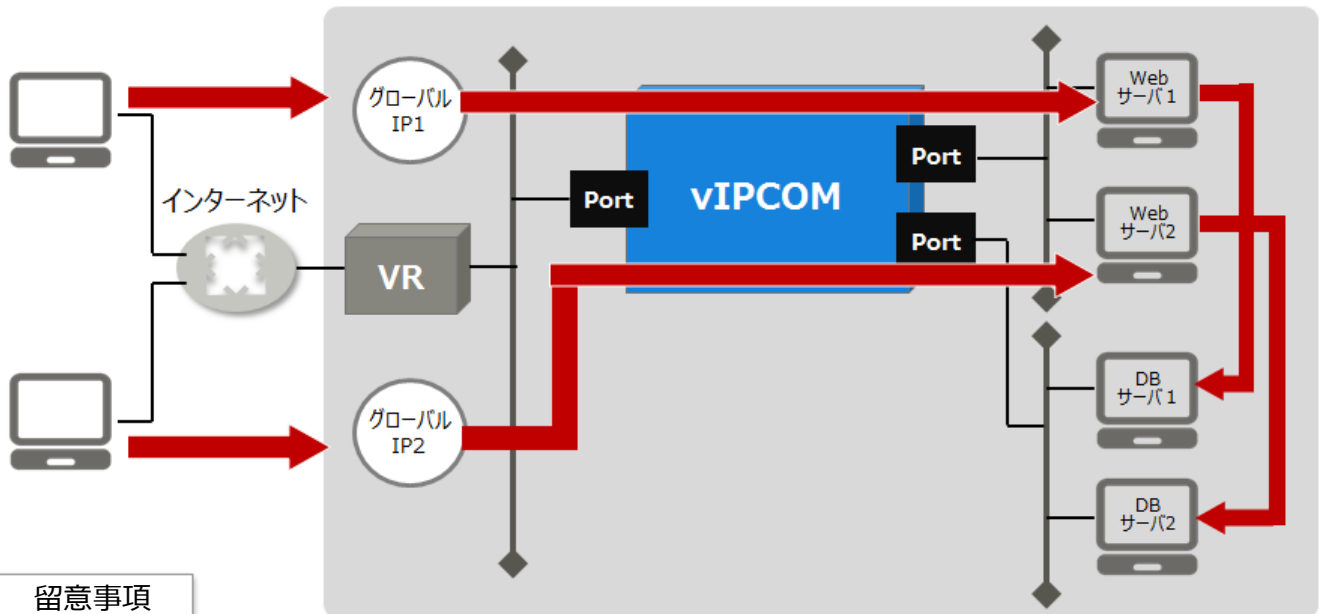
10年以上の実績を持つIPCOMを仮想ソフトウェア化した「仮想アプライアンス(IPCOM VA2 1300 LS)」をK5のオプションとして提供します。これにより、K5仮想ルータのファイアウォール機能やセキュリティグループ機能に加え、WAFやIPSを活用した高度なセキュリティ機能を実現いたします。

主な機能

- WAF(Web Application FireWall)機能：アプリケーションなどの脆弱性をついた攻撃や不正アクセスから防御
- アノマリ型IPS機能：お客様アプリケーションへのDoS(Denial of Service)攻撃のリスクを低減
- ロードバランサー機能：FQDNごとにロードバランサーを分ける必要がなく、1台で2つ以上のFQDNを管理可能
- ログ出力機能:FWログ取得が可能 (例:TCPの場合、送信元/先のIPやポート、セッションの開始or完了など)

アノマリ型:正常ではない、異常なパケットやトラフィックを攻撃として検知する仕掛け

FQDN:Fully Qualified Domain Name(ホスト名、ドメイン名などすべてを省略せずに指定した記述形式)



留意事項

- ・ 仮想アプライアンスのライセンス費用に加え、仮想サーバ費用(S-1またはS2-1)、システムディスク費用(102GB)が発生します。
- ・ 本機能の提供リージョンは、東日本リージョン1、西日本リージョン2となります。

ブロックストレージ（ハイパフォーマンスタイプ）のご提供

仮想マシンのOSおよびデータを格納するブロックストレージにおいて、従来の「スタンダードタイプ(M1)」に加え、増設ストレージ用として「ハイパフォーマンスタイプ(H2)」を新規に提供いたします。

ストレージタイプ	用途	最大IOPS/GB	ディスクサイズ
H2	小中規模DBなど、スループットが必要となるアプリケーションデータを格納する場合	5 IOPS/GB ※	1000GB~3000GB (1GB単位)

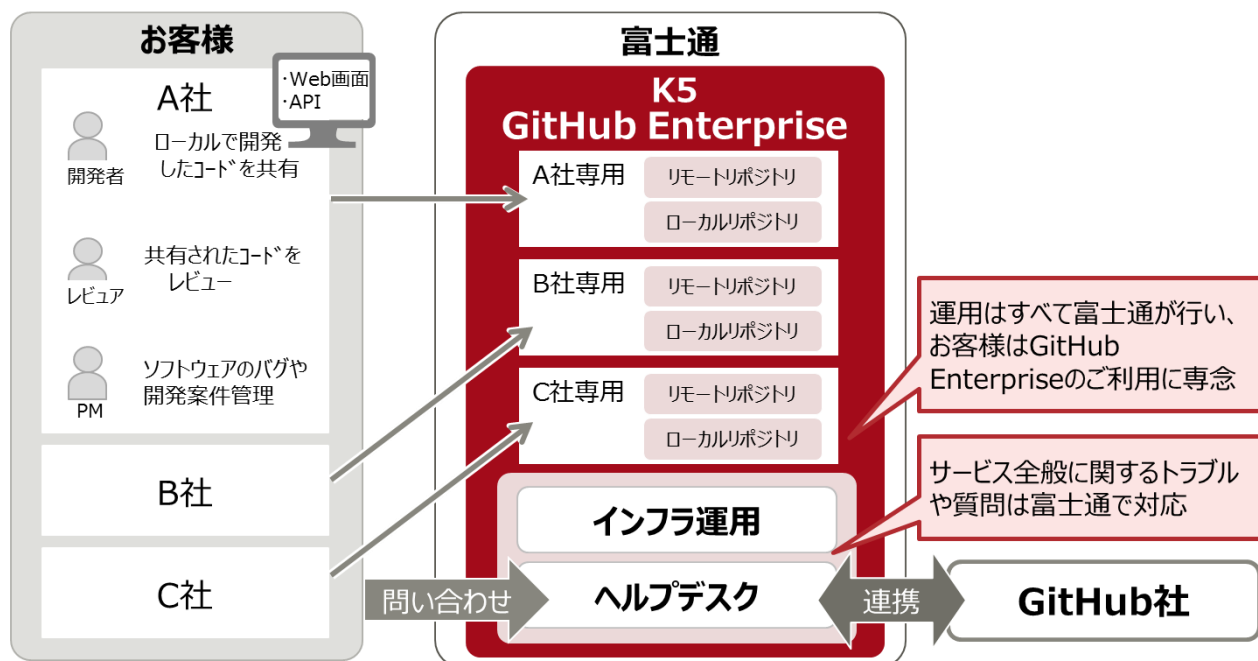
※：IOPSはブロックサイズ16KBで換算します。性能は、動作環境により変化し、保証されるものではありません。

システム開発時のソフトウェアの変更履歴を管理「GitHub Enterprise」をご提供

GitHub Enterpriseは、ソフトウェアのコードの共有／公開や改定履歴管理、開発者間のレビューなど、チーム開発に適した機能を備えたソフトウェアバージョン管理サービスです。本サービスはGitHub社の「GitHub Enterprise」をお客様毎の専用環境としてK5から提供するものです。利用者は、通常の「GitHub Enterprise」の全機能を利用でき、インフラ運用やトラブル時の対応は富士通で対応するため、安心・安全にシステム開発を行っていただけます。

特長

- プロジェクト管理の効率化：バージョン管理だけでなく、ソースコードレビュー機能/案件管理機能/Wikiを提供
- お客様専用環境による安全な資産管理：VMLレベルで専用化しており、安全な資産管理が可能
- 富士通による安心・安全なシステム運用：GitHub Enterpriseのインフラ運用は全て富士通が対応。



※東日本リージョン1にて提供開始

リポジトリ：ソースコードや関連ドキュメントを版数管理するための機能。版数管理のリポジトリ機能は「複数人で共有」「個々のユーザー専用」の2タイプがあります。

ヘルプデスク：GitHub Enterpriseの製品そのもののトラブル・製品仕様に関する質問はGitHub社と連携して解決します。

その他（正式提供を開始したPaaS）

- ビジネスサポート（2017年3月31日～、東日本リージョン1より提供）

お客様がサービスを実施する上で必要な「顧客管理」「契約管理」「料金計算」の3つの機能をWeb APIで提供します。必要な機能だけを利用することができます。（但し、料金計算は、契約管理が必要）

- シェアリングビジネス基盤（2017年4月7日～、東日本リージョン1より提供）

お客様のシェアリングビジネスのアプリケーション構築を支援するサービスです。シェアリングビジネスのアプリケーションに必要な商品や利用者を管理する機能をWeb APIで提供します。

- バッチ基盤（2017年4月7日～、東日本リージョン1より提供）

Javaで開発されたバッチアプリケーションを実行するバッチ実行基盤とバッチに特化した軽量のフレームワークを提供するサービスです。バッチの実行環境の迅速な提供、かつ柔軟な保守を可能とします。バッチ業務の開発・構築～運用保守を幅広くカバーします。（PFの利用が前提となります）